

企業団議会予算決算審査委員会会議録

日時 平成31年2月15日(金) 15時00分～15時39分

会議に付した事件

- ・議案第2号 平成30年度君津中央病院企業団病院事業会計補正予算(第2号)について
(質疑)
- ・議案第3号 平成31年度君津中央病院企業団病院事業会計予算について
(質疑)

出席者

企業団議会議員

出席議員

石井 勝、住ノ江雄次、田中幸子、小倉靖幸、須永和良
石井清孝、永井庄一郎、福原敏夫、小泉義行、小国 勇
笹生典之、杉浦弘樹

企業団執行部

企業長 田中 正、代表監査委員 金網房雄、監査委員 坂元淳一、病院長 海保 隆
専務理事兼事務局長 高橋功一、事務局次長兼医事課長 小島進一、庶務課長 相原直樹
人事課長 石井利明、管財課長 佐伯哲朗、財務課長 竹下宗久、経営企画課長 石黒徳純
病院長代理 畦元亮作、副院長 須藤義夫、分院長 田中治実、医療技術局長 篠崎俊秀
地域医療センター長 八木下敏志行

(午後3時01分開会)

<委員長>

それでは、定例会に引き続き、ご苦労さまです。

ただいまより予算決算審査委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員数は12名でございます。

定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会いたします。

議会定例会初日の本会議において、議案第2号及び議案第3号については、事務局からの補足説明までを既に終えておりますので、当会議では議案の審議を行います。

本日の審査日程はお手元に印刷配付してございます。その順序に従いまして会議を進めてまいりますので、ご了承願います。

日程第1 議案審議

日程第1、議案の審議。

議案第2号 平成30年度君津中央病院企業団病院事業会計補正予算（第2号）についてを議題といたします。

ご質疑ございませんか。

須永委員。

<5番 須永和良委員>

補正予算のほうで2億2,000万円ほど安くなったということで、それはそれでいいことかなと思うんですけども、ちょっと参考までに、この電子カルテシステム整備は本院だけだと思うんですが、分院のほうを整備した場合には幾らかかるのか、教えてください。

<委員長>

竹下財務課長。

<財務課長>

大佐和分院につきましては、36床という病床数でございますので、いわゆるカタログ的なものからの数値になりますが、ネットワークの配線の現状とかを加味しますと、金額的には1億円……、1億5,000万円前後というふうに推定しております。

（「はい、いいです」の声あり）

<委員長>

よろしいですか。

<5番 須永和良委員>

はい。

<委員長>

ほかにご覧ですか。ほかにご質疑ございませんでしょうか。

小倉委員。

<4番 小倉靖幸委員>

本事業について、補正予算の補正後の年間収支が4億円超の損失がされるということで、ご説明をいただいたところなんですけども、現時点で平成30年度の見込み額についてご所見があればお伺いさせていただきますと思います。

<委員長>

竹下財務課長。

<財務課長>

補正予算につきましては、11月末時点の数値をもとに今回、案としてご提出しております。現時点ということですが、直近で確定している12月累計の数値をもとに、ご報告をさせていただきます。

今ご指摘のとおり、2号補正が終了した時点で、本院の年間収支は4億3,000万円の損失を見込んでございます。一方で、本院の事業収益につきましては、12月末の累計で、予算に対して7億1,000万円程度下回っている状況でございます。材料を4億円補正、費用として材料費を4億円補正増して、収益のほうは今回手をつけてございませんが、ただいま申し上げたような見込みですので、それを合わせますと、今の合計額は11億円のマイナス数値となりますが、そのうち、今回は補正対象とはしていなかったんですが、大きな費用がかかります給与費については、現状の見込みで3億5,000万円前後、執行残を我々のほう、財務課のほうでは見ております。それから、外来収益は、現在、目標を3%超える成績でございまして、これはまだ上回っております。

今申し上げまして、4億円の費用増の補正と、収益が7億円程度減少することで、マイナス11と申

し上げましたが、給与費の費用は恐らく執行残が見込まれる、そして4億円補正しました材料費についても、その後、患者が想定外に小さいですので、ここまで使わないものではないかというふうにも考えております。以上を総合しますと、現時点で7億円を、7億円プラス・マイナス1億円程度の損失というふうに見てございます。

<委員長>

よろしいでしょうか。

ほかにごございませんか。

石井勝委員。

<1番 石井 勝委員>

私は今回この3月で議員をやめようと思ってますんで、何か言ったらおかしいんですけど、やっぱり7億円の赤字が、7億円というのは15億円の補助金が出て、その上に7億円積み重なってるんだから、その赤字に対してどういう考えているのか、何か手当てをしなきゃいけないんじゃないかと思うんですけど、最終的にはやっぱり人件費に手を入れなきゃいけないんじゃないかと思うんですね。

この20年間、人件費のことについては余り言ってこなかったんですけど、やっぱり最終的には人件費をどうやって減らしていくか。ちょっと見ただけで、この従業員名簿を見させてもらったんですけど、例えば栄養士がたくさんいる、薬剤師もたくさんいる。本当に必要な人間はどれだけ要るのか、その効率をちゃんと考えられたらいいんじゃないかと思うんですけどね。本当にいっぱいいて、じゃ、栄養士はどこ行ったかという、栄養士の中で調理、調理師のほうをやっている者もいますよね。調理師として雇って、おばさんたちがやっているようなことは10万円ちょっとでいくのに、栄養士雇っちゃえば30万円ぐらいの金を出していく。やっぱり構造的な見直しをちゃんとしないといけない時期になってんじゃないかと思うんですよ。一つ一つ、栄養士にしる、それから薬剤師にしる、やっぱり項目について、ちゃんと見て、本当に必要な人間はどれだけ要るのか、ちゃんと見て、それから、それに当てはめていかないと。

やっぱりさっきコンサルタントが言ったように、どこに原因があるかわからないなんていうようなコンサルタントだったら、困っちゃうんですよね。みんなもわかんないと思う。僕は、恐らく人件費に手入れれば、少しはよくなるんじゃないかと思うんですけどね。やっぱり人件費をちゃんと見直して、もうちょっとやっていたらいいんじゃないかと思うんで、これは要望として、最後の要望としてお願いしておきます。

今まで全然、人のことについては、やっぱり、やるとみんな給料に関係しちゃうといけなかつたんですけど、やっぱり最終的には人件費を、時間外をカットするとか、やっぱりそういう問題になってくるんじゃないかと思うんですよね。まず、人が多いから、そのところを、多いところを少し縮小して、その上で、時間外手当をどうするかとか、そういう問題になってこないか、やっぱり抜本的な解決はきかないんじゃないかと思うものですから、ひとつ最後の意見として言わせてもらいました。いいですよ、お答えはいいです。

<委員長>

それでは、要望ということで受けとめをいたしました。

ほかにご質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

質疑もないようでございますので、続きまして、議案第3号 平成31年度君津中央病院企業団病院事業会計予算についてを議題といたします。

ご質疑ございませんか。

須永委員。

<5番 須永和良委員>

まず、本院の外来患者数が1,180人ということですね。この君津中央病院企業団病院会計予算明細書のほうを見ているんですけど、30ページですね、本院の来年度予算のほうの計画ですと、1,180人ということで、診療日数が4日減るんですよ。でも、そのまま据え置きでというところなんですけど、一方、分院のほうは7人減るというほうで、同じ診療日数が4日減るのに、片方は減らしてて、片方は据え置きというのは、どういう意味なのか、教えてください。

<委員長>

竹下財務課長。

<財務課長>

お答えいたします。

大佐和分院と本院の比較でございますが、本院も、やはり患者は目標数値を現状では下回っておりますが、現在、5%をプラス・マイナス1ポイントの間で推移しております。対しまして、大佐和分院の外来患者1日平均につきましては、11月末の時点で10%ほどの開きが目標に対してございました、今申し上げておりました。あと、大佐和分院については、ここ数年、やはり外来患者が減少傾向にあったということで、31年度については、ごらんの目標数値に修正させていただいたものでございます。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

わかりました。外来患者のほうの数値が目標数値をちょっと下げたということなんですね、大佐和分院に関してはですね。

先ほど大佐和分院のほう、ちょっと電子カルテの話もしましたが、53ページのほうで見ると、建設工事費のところですね、分院建設改修工事、これ、179万8,000円は、厨房のエアコンだというふうに先ほど説明がありましたね。ほかに、何でしょう、改修とか、あるいは何かの予定というのは一回今とまっちゃってると思うんですけども、大佐和分院の今後のことについてちょっとお聞きしたいんですが、たしか、エアコン入れますよね、補助金使ってエアコン入れて、要するに7年ぐらいはたしか取り壊すこともできないわけですよ、違いましたっけ。さらに、今回、電子カルテも入れない。

何か自然消滅的な流れに持っていこうとしているのかなと、ちょっと感じてしまうんですが、今後、大佐和分院をきちんと——大佐和分院、場所が変わるかもしれないから、分院という存在は、残すべきなのか、残さないべきなのかという議論をしていくんでしょうか。それとも、このまま何か、もう何も手を打たないで自然消滅的な流れに持っていくんでしょうか。何かそういう意図がちょっと感じるので、もしそうじゃなければ、そこを否定してほしいんですけど。

<委員長>

高橋専務理事。

<専務理事兼事務局長>

大佐和分院についてでございますが、まず、スプリンクラーにつきましては、これは施設が老朽化する、しないにかかわらず、そこに入っていられる患者さん等のもので、これは安全上、必要不可欠でございますので、これは入れさせていただきました。

それから、大佐和分院を今後どうするかについてでございますが、大佐和分院につきましては、まず、

富津市さんのほうからは建てかえのご要望がございます。そして、地区医師会のほうからも、大佐和分院は必要なので存続をとというご希望がございます。

ただ、今後どうするかにつきましては、論点は施設整備計画で整理いたしました。今後、何がネックになってるかといいますと、今、国のほうが地域医療構想なるものを打ち出しまして、高度急性期、急性期あるいは回復期リハ、療養病床等ですね、病床を区分しようとしております。病床の見える化というか、機能の見える化ということで、それを今整備しておりますが、千葉県もそれをやっておりますが、君津も含めて、まだ固まっておりません。いろいろ試行錯誤しておりますが、今時点では、急性期は、この地域は過剰だという認識でおりますが、ただ、今、県が見直している中では、今度は急性期が不足するというような、そういう方向にも行きそうだということで、地域医療構想がまだふわふわして、固まっておりません。ですから、まず、地域医療構想で、その地域でどういう機能の病床がどのくらい必要かというのが固まらないうちは、私どもも動けません、というのが実情でございます。

ということで、必要性については、私どもは認識しております。2次救急も担っておりますし、地域の貴重な医療資源として必要だという認識は持っております。

以上でございます。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

はい、わかりました。安心させていただきました。

それでは、次の質問なんですけれども、39ページですね。39ページの委託料の部分において、空調設備保守業務、空調用薬品管理業務、空調設備診断業務と3つあります。ちょっと、これがどういう、例えば競争入札なのか、あるいは随意契約なのか。あるいは、どこか、3つとも違う会社が受けているのか、同じ会社が受けているのか。その辺のところをちょっと簡潔に教えていただけたらと思うんですけど。

<委員長>

佐伯管財課長。

<管財課長>

お答えいたします。

委託業務の業者の選定につきましては、50万円を超える案件につきましては基本的に入札によって業者を選定しております。今回お話しいただきました、これらの案件につきましても、入札によって業者を決定する予定でおります。

空調関係の業務委託につきましては、空調設備保守業務と空調用薬品管理業務は、こちらのほうは業務の目的や内容が異なりますので、応札できる業者は異なっております。過去の入札におきましても業者は全く重複しておりません。これを一本化するということも考えられるんですけれども、一本化するメリットが見出しにくいという現状がありまして、区別して実施しております。

また、空調設備診断業務につきましては、来年度にスポットで実施する予定でおるため、別枠として今回予算化しております。

以上になります。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

わかりました。じゃ、これ、名前は空調用薬品管理業務と空調設備保守業務と似てるけど、全く全然内容が違う業務ということですね。

(「そうですね」の声あり)

<委員長>

佐伯管財課長。

<管財課長>

そうですね。空調設備のほうはですね、空調設備のフィルター清掃ですとか交換ですとか、あと蓄熱設備ですとか、吸収式冷温水発生機などの点検整備を年間を通して委託しているものなんですけど、薬品管理業務のほうは、空調設備の中の冷却塔とか吸収冷温水機、冷凍機といった、水を使う設備の水質維持を目的として、例えばレジオネラ菌の発生防止ですとか、配管の腐食防止ですとか、スケールとか、あと珪藻類によるスライムの障害防止などを目的として専用薬品の注入、あと水質検査を委託しております。今、当院の設備に適合する薬品が製造しているメーカーが2社あるんですけども、本年度はそのうちの1社と契約をいたしまして、薬品調達や水質検査のほうが自前で行えるため、安価な契約となっております。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

わかりました。そういうことなら、確かに一本化できないというふうに思いますが、ただ、空調設備保守業務、5,000万円ですね、消費税10%で500万円になります。であれば、自分のところで電気工事設備士とかの資格を持っている人を例えば2人ぐらい雇って、もう一日中ずうっと空調だけ見させておいても、こっちの方が安くなるわけですね。

同じように、駐車場管理業務とかもですね、1,000万円を超えるような委託に関しては、恐らく人を直接雇っちゃったほうが消費税分だけでも簡単に浮いてくるんじゃないかと思っておりますので、その辺は、今後、検討していただきたいと思っております。

ちょっと順番が逆になってしまったんですが、予算全体を通して企業団の予算ということであるんですが、診療科目ごとの予算というのはつくっているのでしょうか、教えてください。

<委員長>

竹下財務課長。

<財務課長>

診療科目ごとの予算というお尋ねではございますが、医業収益全体額あるいは診療単価を求める際に、当然、診療科別の試算というのを行っております。例えば31年度予算ですと、先ほど申し上げました11月末までの当該年度の累計額、診療科別累計額、その全体額に対する、それぞれの診療科ごとの割合、あるいは入院患者も同様なものを求めております。それを前年度との比較も行い、その年度間での要因、例えば医師がふえたり減ったりしているとか、そういったものも含めて、それらを加味した上で、今回ですと31年度の診療科別の収益額あるいは延べ患者数等々は求めております。

ただ、この数値というのは、あくまでも私ども財務課のほうの試算、試算結果として扱っております。ご提示する、先ほど申し上げた単価あるいは入院患者数の診療科別の割り振りの妥当性の担保のために用意しております。院内には公表はしておりません。

<委員長>

須永委員。

< 5番 須永和良委員 >

わかりました。公表はしていないということなのですが、診療科ごとの数字はあるということなので、多分、そちらをよく精査していただいて、毎年、例えば、使っているお金がふえているんだけど、赤字がふえているとか、予算ふえているんだけど、数字が出ないとかという科目に対してですね、言いづらいかもしれないけど、外部のほうから診療科の担当のほう、先生のほうにですね、ちょっと結果をお願いしますということを書いていくしかないと思うんですね。

先ほど説明の中で、運営委員会の中ですか、その原因がわからないという話がちょっとあったんですけども、赤字のね。総務省が出している公立病院の経営分析比較表、これを見ますと、明らかに類似平均とか全国平均と比べてちょっと高いかなと思うところが、材料費のうちの薬品費は、先ほど話がありましたね、説明が。がんの薬とかですね、それではなくて、薬品費以外の医薬材料費というところが非常に増減というか、ふえているんですね、類似平均、類似団体と比べても。なので、この辺のところとかを見てやっつけていけばいいと思うんですが、この辺の分析表とかは、表を見て分析はしてるんでしょうか。

< 委員長 >

竹下財務課長。

< 財務課長 >

毎年度、決算報告しているものを統計化したものが、今ご指摘のものだと思いますので、そちらについては、公表され次第、プリントアウトし、当企業団、把握して、エクセルのファイルの形で幹部職員等には配付しております。

< 委員長 >

須永委員。

< 5番 須永和良委員 >

であれば、さっき言ったように、薬品費以外は高いというのは認識しているわけだよね。それでいて、38ページの上から3行の診療材料費、給食材料費、医療消耗備品費、これ全部、前年度予算より今年度予算はふえてますよね。何でふやしたんですか。

< 委員長 >

竹下財務課長。

< 財務課長 >

実勢が、まず材料費は、当院の場合は医業収益に対する割合が高いのが現状でございます。先ほどご質問ございましたが、診療科別の収益等々で見えていきますと、当院の場合は、収益全体に対する診療科別の収益の割合で、いわゆるABC分析的なものになりますが、入院収益全体の70%を8つの科で占めております。その8つの科というのは、その内訳は、一番トップが循環器科、これはいわゆる血管治療を多く行って収益を上げているところですが、こちら、当然、材料費が、カテーテルが高価ですので、材料はかなり高いです。次は消化器科です。材料として驚くほど高価なものは使いませんが、ここは延べ患者も多く、単価も比較的高いものですから。以降は、整形外科、脳神経外科、外科、産婦人科、心臓血管外科と全て外科系で、材料費を多く使う診療科になります。

そういうこともあって、当院の場合は、やはり材料の割合はある程度、医業収益に対して占めるものというふうには見ておりますが、ただ、それを野放図にしていくと、どんどん、どんどんふえていきますので、昨年から申し上げますとおり、多少無理であっても、予算の際には医業収益に対する割合としてシーリング設定を行って、絶えず価格の見直しあるいは材料メーカーの見直し等を行ってもらえる

ように働きかけております。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

であれば、予算を抑えていかなきゃいけないんじゃないの。予算をどんどん前年度に対してふやすんじゃなくて、前年度と同じにしておいて、何とかこれで抑えてくださいとやって、足らなかつたら、最後、補正でもいいんだけど、予算をふやしている限りは減らないと思うんですよね。

ちなみに、これは、その同じ総務省の経営分析比較表にいくと、100床当たりの職員数という点においては、医師の数も、看護師の数も非常に少ないです、類似に比べ。皆さん、すごい頑張っていると思うんですが、ほぼ大体同じぐらいのあれになるんですけど、何か2倍近いところがあって、それが給食部門。これは類似平均が2.1に対して、給食部門4.1です。それと、その他というところですね。その他が何の職員かわからないんですけど、その他というところも、これもかなり類似平均に比べるとふえています。だから、その辺を見直すことが実は経営改善につながるのかなと思います。

もう一点だけ、最後ですね。35ページの収益の部分、その他医業外収益というのが35ページにあります。このその他医業外収益の中のその他という部分、ここに売店とか店舗とかの賃料というんですかね、何ていうんですかね、それは入ってくるんでしょうか、ちょっと教えてください。

<委員長>

竹下財務課長。

<財務課長>

売店の賃料に関しましては、その他医業外収益です。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

では、売店、それからレストラン、あとATMがありましたっけ、ATMの賃料も、ここですかね。あれは全部、平米当たり幾らというので貸している、賃料もらっているという形でいいんでしょうか。そして、その平米単価は幾らなのか。幾らというか、同じなのか。それとも、例えばATMなら幾ら、売店なら幾ら、レストランなら幾らというふうに決められているのか、教えてください。

<委員長>

佐伯管財課長。

<管財課長>

お答えいたします。

レストラン等の使用料に関しましては、行政財産使用許可証を発行しまして、使用料金を徴収しております。一応、こちらの君津中央病院企業団の病院事業料金徴収規程というのがございまして、その中で、食堂に関しましては1平米当たり1,620円、あと売店も同じく1,620円。それから、自販機による飲料等の販売につきましては、1台当たり1,080円。全て月額なんですけども、そういった規定がございまして、それに準じて使用料のほうを徴収しております。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

以前にも言いましたけども、使用許可ではなくて、行政財産の貸し付けにして公募をすべきだと、以

前にも言いました。売店とレストランで同じ単価のわけがないんです、一般常識からすれば。油を使えば、グリストラップとかだって交換しなきゃいけないし、さまざまな、空調だって油がたまるだろうし、負荷がかかるんです。これは常識的に考えて、同じ値段のわけがないし、ましてや、今、公募してないですよ。ずっと公募しないで、1年契約で同じ業者さんと契約してる。これは競争性がないし、その今までの間に「うちもやりたいんだけど」というふうに手を挙げた業者さんはいましたか。

<委員長>

相原庶務課長。

<庶務課長>

ただいまの質問ですが、今まで手を挙げてきた業者は、恐らくいなかったと……

(「公募してなかった」の声あり)

公募……、そうですね……

(「公募ではなかった」の声あり)

はい、ええとですね、現病院の開院時にはプロポーザル方式によって業者のほうを選定しております。

<委員長>

須永委員。

<5番 須永和良委員>

一度プロポーザルやって、その後からずうっともうやってないわけですよ。別に長期契約じゃないわけですよ、1年ごとに契約してるんだから。だから、ほかの人が入れない理由がないじゃないですか。何で、この業者さんだけ自動的に経営やるの。ほかをもう意図的に排除してるようにしか思われませんか、これはすぐにでも公募すべきです。

だから、金額は認めますよ、予算の。ただ、業者の決め方は認めませんよ。大ごとになる前に、私が大ごとにする前に、これは契約方法を変えるべきです。と言って、指摘して、終わりにします。

<委員長>

ほかにございませんか。

石井勝委員。

<1番 石井 勝委員>

じゃ、もう一回だけ。僕は今度、心臓外科できっと手術をしてもらうんで、心臓外科の材料費については文句言いません。ただ、抗がん剤の使用が非常に、5億とか6億、7億になってきていますから、やっぱりそれはね、治験で構わないと思うんだけど、やっぱりそういう薬は大学のほうでやっていただいて、それはみんなが通常使えるようになったら、ここに置いてやるよと。どうしてかと言いますと、昔、C型肝炎のときに、薬を使いましたよね。その薬が高いもんですから、患者が来ると中央病院に送っちゃったんだよ、うちはね。そういうことがあるもんですから、薬のお金についても、やっぱり、使ってもいいんじゃないかと、確かに高みを目指すんですけど、高みを目指すんだったら、大学にやっていただいたらいいんじゃないかと思うんです。そのことについて意見を……。

<委員長>

海保病院長。

<病院長>

先生の、今、高額なやつは、今出ている免疫チェックポイント阻害剤、その類いだと思いますが、これはもう通常に、普通に使われているお薬です、先生、一般に。もう保険もききますし。ましてや、当院のような、がん拠点病院では使わざるを得ません。この地域の住民が全部、大学病院に行ったら、大

学病院がパンクしてしまいます。

以上です。

(「でも、先生」の声あり)

<委員長>

よろしいですか。

(「よろしい……」の声あり)

石井勝委員。

<1番 石井 勝委員>

今度は、消費税が上がってくるから……

<委員長>

ちょっとマイク……、くださいね。

<1番 石井 勝議員>

やっぱり、これについても消費税がついてくるんじゃないかと思うんですよね。5億円だったら、やっぱり5,000万円くっついてくるんだから、やっぱりなるべく使っちゃ……、使わないほうがいいということは言えませんが、あんまり高みを目指さないでもらいたいと思います。要望ですけど。

<委員長>

要望でよろしいですか。

<病院長>

そうしますと、うち、がん拠点病院を返上するということになります。

(「ああ、なるほど」の声あり)

よろしいでしょうか。

<委員長>

ほかにございませんでしょうか。ほかにも質疑ございませんか。

住ノ江委員。

<2番 住ノ江雄次委員>

私のほうから1点だけお伺いをしたいと思います。

このA3判の説明の中に、10ページです。外国人利用者に向けたサービスということで、今回、電話医療通訳の活用ということで19万7,000円、金額は低いんですけども、入っておりますが、外国の方に対する、患者に対します留意事項ですね、言葉が通じないとか、そういうのがあったかと思えます。それに対する今までの、こういうことがあったかというような実例があれば、挙げていただければと思うのが1点と、あと、やはりオリ・パラがまいります。となると、やはり木更津市の中にも外国人の方の患者もふえることも当然あるかと思うんですね。それに対する何らかの通訳以外の対応策等々考えておられるのかどうか。もし、なければ、考えていただきたいと思っております。2点です。

<委員長>

相原庶務課長。

<庶務課長>

それでは、ただいまのご質問に対してお答えいたします。

今回、こちらの電話医療通訳を新規事業として上げさせていただいたのはですね、やはり外国人の方が来院されて、当院の現状ですと、今、職員でその会話ができる方を募っております、それで、それを一覧にして、そのとき、そのときで対応できる方が対応しているという状況でございます。その中で

昨今、通訳がなかなか難しいということで、皆さん、辞退をされているのが現状でございます。そういったところを踏まえまして、今回、こちら、日本病院会という団体を取りまとめているんですが、そちらのサービスを利用して、外国人に対して適正な医療の提供をするようにということで上げさせていただきます。

通訳以外、2点目ですね、通訳以外……、そうですね、オリンピックが控えておりますが……、当院ではそれ以外はちょっと考えてはおりません。

以上です。

<委員長>

小島事務局次長。

<事務局次長兼医事課長>

少し補足させていただきます。

先ほど職員を募って通訳をしていたという説明がございましたが、全ての言語に対応できているわけではなくて、英語、中国語等、数か国語だけの対応でしたので、それ以外の言語の場合はボランティア通訳、市役所等を通じてボランティア通訳に依頼したりしておりまして、すぐの対応ができなかったという、そういう状況もございましたので、今回、このようなサービスの提供を受けようとするものでございます。

(「はい、結構です」の声あり)

<委員長>

よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

(発言する者なし)

ほかに質疑もないようでございますので、3号議案の質疑を終了いたします。

以上で、当委員会に付託されました案件の審査は全て終了いたしました。

これにて予算決算審査委員会を閉会いたします。

ご協力ありがとうございました。

大変ご苦勞さまでした。

(午後3時39分閉会)